

## 2021年1月3日「証詞の応答と近況」

+1 今日、コロナ旋風の止まらないこの時、闇から光へ、新しい歌を歌おう、との聖句と、力強い希望に満ちたメッセージありがとうございました。いろいろ教えられました。創世記を改めて読むと、「闇が深淵の面にあり、」「光あれ」こうして光があった」と最初に書いてありました。闇から始まって光へ、です。これにも力づけられますね。

2 それらが、バビロン歴の太陰暦の影響だということは興味あることでした。バビロンでは7が良い数字で、太陰暦は7で割れる364日とのこと、それが安息日のもとになった7日目。それだけでなく創世記で、「第7の日に神はご自分の仕事を離れ、安息なさった」との記事にも反映しているとのこと、今日は興味深いお話の連続でした。面白いことづくめでした。それにしても日本のカレンダーは神道づくめですね。元旦は四方拝、2月11日紀元節、今の名は建国記念の日、3月20日は春分の日と称する春季皇霊祭、カレンダーを取り換えながら5-60年前の紀元節反対運動のころを思い出しています。

3 紀元前152年マカバイ記のローマへの稀にみる勝ち戦の、戦争の発端がユダの祭儀を汚したことによる、という戦争にも発展する祭儀の重要性も認識しました。イエスが既成の墮落したエルサレム神殿を破壊したことはそういった背景、環境あつてのことらしいことも興味あることです

4 さてコロナ禍の現実を見渡しますと、東京都ら首都圏4知事が揃って政府に非常事態宣言を発するよう2日政府に申し入れた。非常事態は遅くとも1か月も前から入っていることが歴然としているのに、政府の非常事態宣言などの対策の遅いこと、誰でもそう感じています。遅れに遅れた、6日の東京都の感染者数は1591人と爆発的増加になってきた。「医療崩壊」もそうは政府が言わないだけで、もう現実である。この間感染者も死者も著しく増大。この罪は極めて大きい。政府菅政権がこれからどうするか、飲食業の夜10時迄を8時まで短縮せよ、と都に切り返した。またぞろ責任のなすりあい、非常事態宣言も時短などに絞って小出しにするつもりらしい。決定は遅れに遅れて不徹底、無策無責任の政府菅政権、「被害者は民衆」の構図は変わらないのが悔しい限り。こんな政府では我々銘々が自衛するしかないですね。闇から光へは、民衆の祈りと力で転換させるしかない！

5 こういう事態の中での、「行く手の闇を光に変え」のメッセージありがとうございました。小池健治

+新年初回の証詞にふさわしく、暦に関連したお話を聞かせて頂きありがとうございました。

日本の暦は天皇制や祭儀に関連して作られているという指摘に、普段何気なく無意識にみている暦を改めてよく見ると2月に早速「建国記念日」や「天皇誕生日」がしっかり書き込まれていました。

捕囚の民が、自分たちの文化や祭儀を捨てざるを得ない環境の中にあつてアイデンティティーを守るために努力を惜しかなかった長い年月を思います。

コロナ感染で世界中が閉塞感に包まれている今、私たちはおかげさまでオンライン礼拝によって日常を継続することができていますが、行く手の闇を光に変えて下さいと祈るためには私たち自身も努力しなければと感じています。榎本征子

+コロナ感染者数が過去最高を記録する中で新年を迎えました。政府の無策ぶりには本当に腹立たしい限りです。すべて後手になっているのにまだ経済にしがみつこうとしているのですから。医療従事者、飲食業の人々の立場を何故想像できないのか不思議です。本当に私たちは今「通ったことのない道を歩いている」のだと思います。「行く手の闇を光に変え」の聖句のようにこの不安な状況を何とか希望をも

って進んでいきたいです。正月三が日の青空はとても気持ちよかったです。コロナ禍で人の活動が減り世界中のCO2排出量が全世界で7%減ったと新聞にありました。経済は落ち込んでいますが、コロナが終息したらもう元のように地球環境を壊すような活動をするわけにはいきません。今年は特にそんなことを意識しながら生活していこうと思います。皆さま今年もどうぞよろしくお願いいたします。小島悦子



イスラエル博物館(エルサレム)の中の死海写本館(中の撮影は禁止)



クムランの居住地遺跡(左上遠く見えるのが死海)